

レジャーの選択肢に休息を！

多摩大学経営情報学部

近藤 護 椎原 悠貴 村田 あづな

1.目的

現在の日本でレジャーというと趣味や娯楽を思い浮かべがちだが、そこに休息という選択肢をつくる。

宿泊を伴った旅行だと利用料金が高くなったりするため、長期休暇などの際に年に1.2回行こうというイメージを撤廃したい。

このことに目を付けた理由は、2.30代で高ランクの宿泊施設に泊まってみたいと思っはいるものの、泊まらずにいる人に費用を抑えた状態で体験してもらい、その後、休息をすることで生まれる意義を感じてもらいたいと思ったため。

2.方法

ホテルオークラに新たな提案として、富裕層向けのプランのほかに平均的な年収の2.30代をターゲットとしたプランの展開する。

プラン内容：

部屋の清掃回数を減らすことで、宿泊にかかる費用を抑えつつ、SDGsの7番のエネルギーの無駄な使用を抑えるという点に賛同することもできる。

普段の生活で疲れ果てた体を癒せる究極なサービスを提供する。

予約サイトに宿泊者とのやり取りを任せることで、労力の軽減が可能となり、宿泊費が抑えられる。

3. 考察

実現すれば、ランクの高い宿泊施設でもある程度金額を抑えることができるため、宿泊者が増えると考えられる。

2.30代でホテルに泊まることに価値を感じる事ができれば、継続的に行えるレジャーの一部となると考えられる。